

チームA2

酒田市中心市街地活性化

c1180181 五十嵐拓哉

c1180169 五十嵐一樹

c1181341 須賀陸

c1181973 藤橋隆之介

c118087 小林一輝

c1181909 平岩愛貴

私たちの中通り商店街に対するイメージ

- 商店街に人通りが少ない
- 空き店舗が多い
- 駐車場が不便
- 流行りものに少し疎い
- 雨の時に不便
- 常連客が多い
- イベント開催の時以外は足を運ばない



中通り商店街へのアンケート

- 8月の上旬に中通り商店街に存在する店舗を対象にアンケートを行った。
- アンケートを取った理由としては商店街の皆さんの意見や考えが今回の課題解決の参考になると思い行った。
- アンケートの内容としては店舗名、創業年数、情報発信として取り組んでいるもの、商店街が発展していくためには何が必要か等

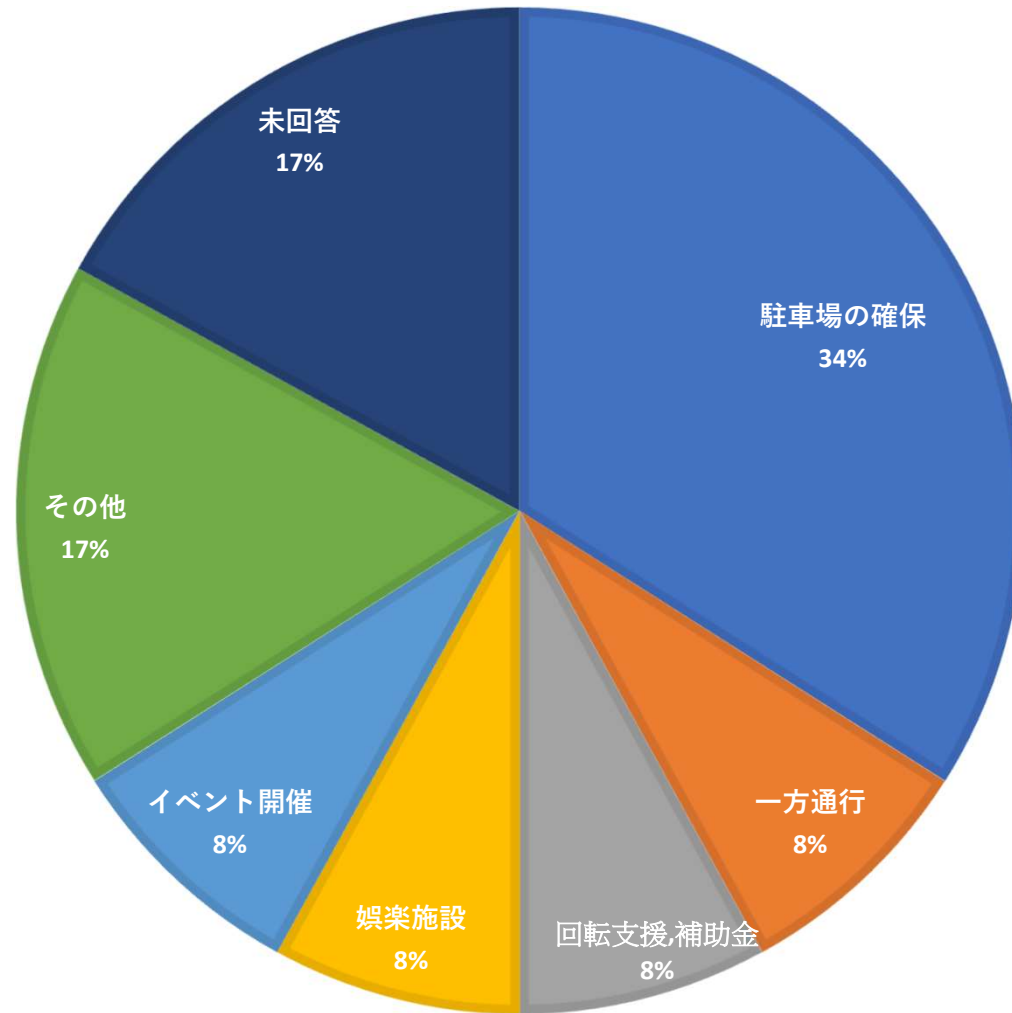
中通り商店街へのアンケート

- アンケートの一部に私たちは注目した。
- Q. 商店街が発展していくためには、どのような施設の整備や取り組みが必要だと思いますか？
- Q. 情報発信として取り組んでいるものはありますか？



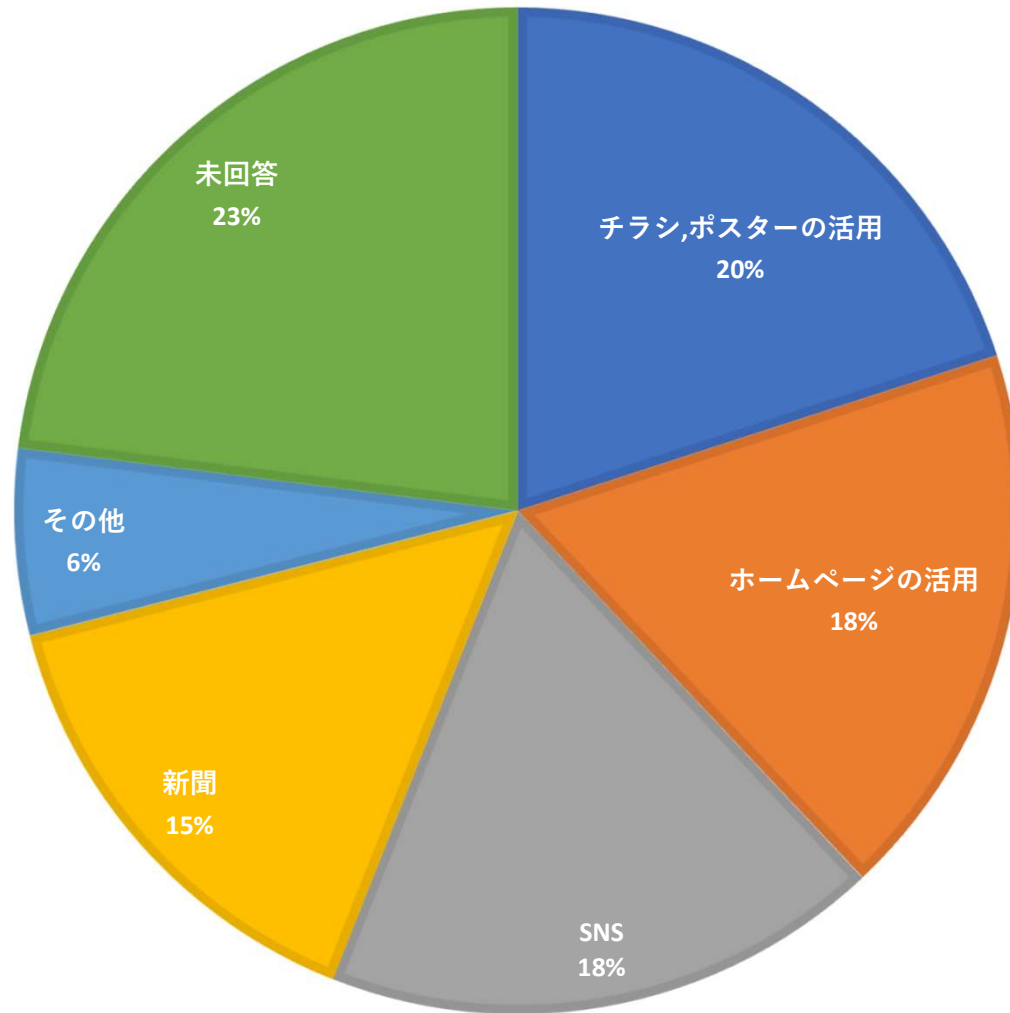
商店街が発展していくためには

■ 駐車場の確保 ■ 一方通行 ■ 回転支援,補助金 ■ 娯楽施設 ■ イベント開催 ■ その他 ■ 未回答



情報発信取り組んでいるもの

■ チラシ,ポスターの活用 ■ ホームページの活用 ■ SNS ■ 新聞 ■ その他 ■ 未回答



中通り商店街へのアンケート結果

- この結果から、一個目のグラフで回答数の多かった駐車場、駐輪場の確保が必要だと感じた。
- 二個目のグラフではホームページやポスターを活用している割合が多いという結果だったが、ユーザー数の多いSNSを利用するほうが現代の若者や大人に情報発信できると感じた。



中心市街地発展のために

私たちは中町中心街発展のために大きな3つのプランを考えました。

① 駐車場、駐輪場の確保

② 情報発信

③ 空き店舗の利用



① 駐車場、駐輪場の確保

- 有料駐車場の無料化で利用客増加を図る。
- 無料駐車場のお試し期間を設けさせてもらう。
- 駐輪場を確保することによって中高生、大学生の利用数を増やす。
- 駐車場の場所をできるだけ目につきやすい場所に設置させてもらう。

駐車場無料化の先行事例

- 先進事例では民間駐車場の無料時間の延長を行った。
- 研究結果では以下のことが判った
 1. 駐車場の無料時間延長は正の相関があった。
 2. 逆に無料時間を無くす、駐車料金を値上げすることには負の相関がある。
 3. 駐車場は利用店舗に近いと正の相関がある。
 4. 駐車場の無料時間が長いほど、訪問頻度が増える。

以上のことから駐車場無料化は来客数増加の期待が持てる。

参考：駐車場無料時間による地方中心市街地への訪問意識・滞在特性に関する研究

②情報発信

○理由として

若者の目につきやすいSNSを利用すれば人が集まると考えた。また、酒田市の多くの学生は中心市街地に行くことが少ないためSNSでお店の情報を公開し来店しやすい雰囲気を作る。

○利用するアプリとして

- Twitter
- Instagram
- Youtube



内容として

①中町商店街専用のアカウントを作る。



②山形県、酒田市の公式アカウントに拡散をお願いする。
SNSで拡散してもらうことにより関心を持ってもらう。



③拡散者へお店で使えるサービスを提供する。

内容として

- ポスター制作や東北公益文科大学のガイダンス資料に専用アカウント転載、情報の提供をする。
- 商店街の映画を作成しYoutubeに投稿する。また、映画を撮影している裏側などをInstagramやTwitterにアップする。脚本を一般募集にして更に注目させる。



Youtubeの事例

- 山形県新庄市で商店街を題材にした短編映画がYoutubeで10万回再生されている。
- 作られた経緯としては商店街に人がいない、ゾンビでいいから来てほしい。そんな町の人々の嘆きから商店街を舞台にした短編映画「ゾンビ商店街」が出来上がった。

○URL

<https://youtu.be/E2ZNXbfGVnw>



③空き店舗の利用

- <使用例>
- 学生をはじめとした市民が利用できる多目的スペース
(酒田市役所のフリースペースや中町健康プラザ等を想定)
- 気軽に利用できるイベントスペースとしての活用
- 東北公益文科大学の学生グループの拠点としての利用
(学生が商店街と関わることで、学生の関心や利用を促進する)
- カフェや喫茶店
- 映画館等の娯楽施設

③空き店舗の利用

- 酒田市の中町商店街にはR1時点で79店舗あり、今年に入ってからいくつかの店舗がオープンしたが依然として空き店舗の数は多い。
- そこでいくつかの空き店舗を改装し、市民に対して様々な利用をすることが出来る多目的スペースとして開放する。多目的スペースの利用に合わせて周辺の店舗の利用が増加すると考えられる。

空き店舗利用の先行事例

- 地域交信カフェ「Three Café」

（札幌市南区・石山商店街振興組合）

東海大学生と地域住民からなる地域カフェ研究会が運営しているカフェ。人々の魅力を発信・交流する場となることを願い、学生が地域交信カフェとした。地域の農協や飲食店と協力し、飲食物を提供している。



空き店舗利用の先行事例

- 「まちなか縁側プロジェクト」

（芽室町・芽室町商店会連合会）

校外にできた複合商業施設の開業による購買力の流出、また商店経営者の高齢化に伴う廃業などを背景として発足。空き店舗をカフェとマルチスペースとして改装。カフェは自販機や無線LANを設置し、日中は自由に出入りでき、物販やイベントなどにも使えるようにした。マルチスペースはサークルや会議の場として無料開放。学生によって勉強の場として活用されるだけでなく、各種団体のイベントに活用され、スケジュールは月の半分以上は埋まっている状況。

空き店舗利用の課題

- 空き店舗を活用し、住民の交流の場として活用したり、憩いの場とすることで地域にも賑わいが戻る事例があるが、それらの施設の運営が課題となる。多くの場合、それらの施設は行政からの補助金で運営されており、無料で利用することが出来る。そのため、運営資金を補助金以外でどのようにして確保するかが重要な課題となる。



まとめ

- ① 駐車場の無料化を図り、商店街へ楽に足を運べるようにする。また、駐輪場を設け、中高生や車を持っていない人が気軽に来店できるようにする。
- ② SNS（Twitter、Instagram、Youtube）を活用して商店街の情報を拡散する。映画の作成を行う。
- ③ 空き店舗を多目的スペース、イベント活用、公益大の学生グループの拠点利用、娯楽施設に活用。運営資金を補助金以外でどのようにして確保するかが重要な課題である。

参考文献

- 商店街空き店舗活用事例集

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/file.jsp?id=1094410>

(2020-09-23 閲覧)

- 駐車場無料時間による地方都市中心市街地への訪問意識,滞在特性に関する研究。

https://www.google.com/url?sa=t&source=web&rct=j&url=https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/50/3/50_690/_pdf&ved=2ahUKEwio59qNi4HsAhU7y4sBHVyPDjoQFjAAegQlChAC&usg=AOvVaw3VtzvFuZ5uKXTXU3PmPGZm

(2020-09-24 閲覧)